

ときめき人

Tokimeki bito



限界の先へ挑戦 ウルトラマラソン 国際大会出場

東和町・米谷3区出身

滝ヶ平 亜子さん

たきがひら あこ
1991年生まれ

Profile

中学時代はバスケット部に所属し、特設部として陸上大会に出場。高校・大学ではトラック種目のほか、駅伝の県代表や東北選抜選手として活躍し、長距離の経験を積む。現在は仙台市在住。マラソン以外の趣味は、旅行と食べ歩き。



過去にはカップハーフマラソンや栗原ハーフマラソンにも出場し、好成績を取っている。

「ウルトラマラソンは人生のよう。苦しさ乗り越えた先にある楽しさや、達成感がたまらないんです」。そう話すのは、9月20日にスペインで開催される「第33回IAU100km世界選手権」に日本代表として出場する滝ヶ平さん。

ウルトラマラソンとは、フルマラソン(42.195キロメートル)を超える長距離走のことだ。陸上との出会いは、小学生の頃に姉の綾香さんと一緒に始めた陸上のスポ少。以来、陸上漬けの日々を送り、長距離を中心に才能を開花させていった。社会人になってからはフルマラソンに出場するようになり、所属する社会人チームの仲間の勧めで、4年前からウルトラマラソンに挑戦。初めて参加した岩手県の大会で見事優勝を飾り、そこからウルトラマラ

ソンの魅力にのめり込んでいった。

日本代表を狙って臨んだ今年6月の「サロマ湖100kmウルトラマラソン」では、大会前の月間走行距離が760^{キロメートル}に達するほどの猛練習を重ね、限界ギリギリの調整を続けてきた。迎えた本番、後半は足が動かなくなるほどの過酷な状況だったが、「まだ耐えられる、楽しもう」という強い気持ちで走り抜き、見事女子3位に入賞。悲願だった国際大会出場の切符をつかみ、これまでの努力が実を結んだ喜びを深くかみしめた。

初挑戦となる大舞台に向けて、滝ヶ平さんは「まずは思い切り楽しんで、最後まで強い気持ちでゴールしたい」と意気込む。家族や仲間からのエールを背に、世界の舞台で限界の先へと突き進む。

編集後記

▼特集の取材で印象的だったのは、捕獲を担う皆さんが葛藤を抱えながらも地域を守るために活動する姿。人と動物が互いに傷つけあわないために大切なのは、「餌」や「隠れ家」になる物を極力なくし、動物を人里に寄せ付けない環境。それが、共生への道につながるのではないのでしょうか。(高橋)

▼お盆に道の駅津山へ行くと帰省客などで賑わっていました。津山の歴史を感じる写真展の前では、思い出話に花を咲かせる家族の姿も。取材を終え、外を歩いていると、「お父さん、田舎って落ち着くね」と笑顔で話す幼い女の子とすれ違い、ほっこりしました。(森田)

▼ときめき人の取材には姉の綾香さんも同席。「姉の背中を追って陸上を始めた」という滝ヶ平さんに、「気付いたらあつという間に追いついたよ」と笑う綾香さん。姉妹の絆を感じる一幕でした。かく言う私は、原稿の締め切りに追われヒューヒュー言いながら走り続ける日々です。(添田)



登米市公式ホームページ
<https://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、市政に関する情報などを配信)
<https://plus.sugumail.com/usr/tome/home>



登米市公式 LINE
(市政、イベント情報などを配信)
<https://line.me/R/ti/p/%40972tqqam>

